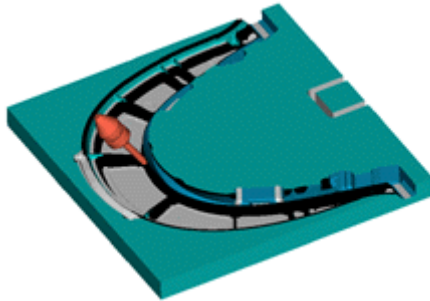


ユーザー事例: Dassault Aviation (ダッソー・アビアシオン)

ダッソー・アビアシオンでは生産性が飛躍的に向上

ダッソー・アビアシオンでは、1992 年からベリカットを使っています。ダッソーの航空機の機械加工部品のほとんどは、フランスのスクラン(Seclin)で製造されています。

ダッソーのスクラン事業所で最初にベリカットを購入したのは、ポリスチレン材を使う手作業の検証回数を減らすためでした。この検証は、時間とお金のかかる膨大な出費となっていました。民間航空機用の高品質な部品を生産する際に、長い工程の各段階で検証するという別の目的もありました。たとえばスクランでは、ツールパスの 1 つのセクションを検証し、いったん止めて検査してから、次のセクションに移りたいと考えていました。しかし同時に、次のセクションの機械加工オペレーションを検査するときに、最初のアペレーションをもう一度シミュレーションしないで済むようにしたい、とも思っていました。これらはベリカットのインプロセスモデル機能により実現し、スクラン事業所では時間短縮と、製造工程における厳しい品質管理基準を満たすように実行できるようになりました。



製造部門は 20 年も使ってきたポストプロセッサに自信を持っていたため、検証プロセスには以前は、CATIA から供給される APT ファイルを使っていました。ところが最近になって、多数のポストプロセッサを変更しました。この移行期間中に、ベリカットは貴重なツールであることが実証されました。つまり、ベリカットはマシンコードデータも利用するため、新しいポストプロセッサの出力を検証できたのです。今ではベリカットを使って、すべての ISO ファイル(G コード)をシミュレーションします。検証された ISO ファイルに対しては、古いポストプロセッサで検証していたときと同等あるいはそれ以上の自信を持っています。

ダッソー・アビアシオンのスクラン事業所で製造される部品はすべて、ベリカットを経由します。製造部門全体がプログラムに精通しています。その結果、ベリカットを使ったシミュレーションと検証は、全プログラム時間の 8%にしかありません。このように効率的な使用ができるのは、製造工程の品質に対するダッソーの熱心な取り組みとベリカットの多用性・機能性によるものであるとエンジニアリング製造部門の Alain Deruyck は考えています。